第１講
人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ

共通テスト地理で統計は重要視される。基本的な統計として，人口と１人当たりＧＮＩ，そして両者の積であるＧＮＩについて学ぼう。さらに人口に関する様々なデータをひもときながら世界を俯瞰していく。統計に対する理解が，地理学習の根底を成すのだ。

１．１　日本に関する数字

人口；1.2億人　1.3億と考えてもいいが，人口減少傾向にある日本は将来的にも1.3億人に達することはない。1.2億人という数字で頭に入れておくといい。

面積；38万㎢　四国＝２万㎢を一つの単位として，九州が四国×２，北海道が四国×４，本州が四国×12。

人口密度；326人／㎢　人口密度は，人口に比例し，面積に反比例する。人口大国であり，なおかつ面積はさほど大きくない日本の人口密度は，高い。

以下の公式を理解しておく。

(人口密度)＝(人口)÷(面積)

(人口)＝(人口密度)×(面積)

(面積)＝(人口)÷(人口密度)

１．２　人口上位10か国

それぞれ次のような数値で覚えておくと使いやすい。

１位；インド(14.8億人)　多産を奨励するヒンドゥー教徒が多い。

２位；中国(14.3億人)　人口増加率は世界平均を下回る。

３位；アメリカ合衆国(3.4億人)　移民の流入が多く，彼らの出生率も高い。

４位；インドネシア(2.7億人)　世界最大のイスラム教徒人口。

５位；パキスタン(2.3億人)　乾燥した国土。外来河川インダス川を有する。

６位；ブラジル(2.1億人)　混血が進む「人種のるつぼ」。南米大陸の半分を占める人口と面積。

７位；ナイジェリア(2.1億人)　アフリカ最大の人口。GNIもアフリカで１位。

８位；バングラデシュ(1.7億人)　面積が狭く人口密度が高い。

９位；ロシア(1.5億人)　人口密度は10人／㎢に満たない。

10位；メキシコ(1.3億人)　カトリックが主に信仰され，人口増加率は高め。

１．３　人口規模を知っておくといい国

・韓国は巨大都市ソウルを有する国であるが，総人口は5000万人と多くない。

・東南アジアはインドネシア以外でもフィリピンとベトナムの人口が多く，１億人規模。タイはやや少なく7000万人，マレーシアはさらに少なく3000万人。都市国家シンガポールの人口は少なく，500万人程度。

・新大陸には面積に比べ人口の少ない国が多い。カナダが4000万人，オーストラリアが2500万人，ニュージーランドが500万人。

<チェック！>

人口は農業すなわち気候条件との関係が大きい。冷涼なカナダ，少雨のオーストラリアは農業が困難な地域が多く，人口過疎国となる。

１．４　西ヨーロッパの主な国の人口

主要国については次のような概数で覚えておく。

8000万人；ドイツ

7000万人；イギリス

6500万人；フランス

6000万人；イタリア

4500万人；スペイン

それ以外の国々(スウェーデンやベルギー，オランダ，ポルトガルなど)についてはいずれも1000万人規模と考えれば十分。上記の主要５か国との間には決定的な違いがある。

西ヨーロッパ最大の国がドイツである。ＧＮＩや貿易額においても西ヨーロッパ最大となっている。東ヨーロッパではポーランドが4000万人，ルーマニアが2000万人。オランダなどの国は人口規模が小さい小国。

<チェック！>

共通テスト地理で一般に「大都市」と言われる場合は、人口1000万人規模とそれ以上の人口を有する都市を考える。東京やシャンハイ，ニューヨークなどは

1000万人を遥かに上回る人口規模。西ヨーロッパの多くの「国」はそれら「大都市」より規模が小さいのだ。

１．５　面積と人口密度

面積上位７か国については，日本（38万㎢）の何倍の面積を有するかが重要。

１位；ロシア（日本の45倍）
２位；カナダ（日本の26倍）
３位；アメリカ合衆国（日本の26倍）
４位；中国（日本の24倍）
５位；ブラジル（日本の22倍）
６位；オーストラリア（日本の20倍）
７位；インド（日本の９倍）

面積は，人口密度の計算に用いる。人口密度が，人口に比例し，面積に反比例することを利用する。

とくに日本を基準に考えるといい。

（人口密度）＝（人口）÷（面積）　だが
（人口密度）＝（日本の人口密度）×（日本との人口比）÷（日本との面積比）　である。

韓国は，人口が日本の５分の２（5000万人），面積が同じく４分の１（10万㎢）なので，以下の計算式が成り立つ。

（韓国の人口密度）＝326×（２／５）÷（１／４）≒522　と算出される。

オーストラリアならば，

（オーストラリアの人口密度）＝326×（１／５）÷20≒３　となる。

１．６　１人当たりＧＮＩ

共通テスト地理で最も重要な指標が「１人当たりＧＮＩ」。なおＧＮＩとは国民総所得のことで，ＧＮＰ(国民総生産)，ＧＤＰ(国内総生産)と同じ意味と考えていい。

１人当たりＧＮＩとは「経済レベル」のこと。具体的には「物価」「賃金水準」の目安となる。これが高い国は先進国と呼ばれ，福祉が充実したり，金融業が発達したりする。教育水準も高い。これに対し，１人当たりＧＮＩが低い国は発展途上国と称され，社会基盤が整わず，就学率・識字率が低い。

また先進国では研究開発を必要とする先端産業などが発達するのに対し，１人当たりＧＮＩの低い国では安価な労働賃金をいかした組立工業などが発達しやすい。

（１人当たりＧＮＩ）＝（ＧＮＩ）÷（人口）で算出されるため，人口規模に反比例する傾向があることを意識する。人口が少ない北欧諸国などで高い値となり，人口大国の中国やインドでは低い。ただしアメリカ合衆国や日本など人口大国でありながら１人当たりＧＮＩも高い国があるが，これらは極めてＧＮＩの規模が大きいということ。ＧＮＩについては後述。

［１人当たりＧＮＩ］

おおまかな数値 （ドル／人）	ヨーロッパの国々 ●・・・ＥＵ	それ以外の国々 ◎・・・ＡＳＥＡＮ △・・・ＵＳＭＣＡ ×・・・ＯＰＥＣ
70000	スイス（88910） ●ルクセンブルク（88190） ノルウェー（83190） ●デンマーク（68300）	△アメリカ合衆国（70900）
65000		◎シンガポール（63000）
60000	●スウェーデン（60210）	カタール（62370）
55000	●オランダ（55180）	オーストラリア（57170） ホンコン（54370）
50000	●ドイツ（51660）	△カナダ（48720） イスラエル（49280）
45000	イギリス（44790） ●フランス（44160）	ニュージーランド（45770） ×アラブ首長国連邦（43460） 日本（43450）
40000		
35000	●イタリア（36130）	韓国（35110） ×クウェート（33780） 台湾（33708）
30000	●スペイン（29690）	
25000	●チェコ（24530） ●ポルトガル（23880）	×サウジアラビア（23920）
20000	●ハンガリー（17780）	
15000	●ポーランド（16850） ●ルーマニア（14200）	
10000	ロシア（11820）	中国（11930） アルゼンチン（9960） トルコ（9920） ◎マレーシア（10710） △メキシコ（9590） ブラジル（7900）
5000		◎タイ（7090） 南アフリカ共和国（6530） ◎インドネシア（4170）
3000		×アルジェリア（3680） ◎ベトナム（3590） ×イラン（3530） エジプト（3520） バングラデシュ（2570）
2000		インド（2150） ×ナイジェリア（2120） ケニア（2080）
1000		◎ミャンマー（1170） エチオピア（940）

統計年次は2021年『データブック　オブ・ザ・ワールド2024』により作成。
単位は「ドル」が一般的だが，数値の意味を考え，本表では「ドル／人」を使用している。

　すでに国境を越えた経済活動が自由に行われているＥＵではあるが，国ごとに経済レベルの差は大きい。全体的には，北欧でとくに高く，南欧でやや低め，東欧でとくに低いといった地域ごとの差異を意識すること。

　ＯＰＥＣ諸国はいずれも原油の輸出がさかんだが，経済レベルの差は大きい。西アジアのアラブ国家（サウジアラビアなど）で高く，また人口小国でも高い水準となっているが，ナイジェリアなど人口規模の大きな国では低い値にとどまっている。

『高い方から低い方へ工場が移動する』

１人当たりＧＮＩの高い国から低い国へと，工場が進出する。安価な労働賃金を利用するため機械工業や繊維工業などの労働集約型工業が中心である。

アメリカ合衆国からカナダへ自動車工場が進出し，ドイツやフランスからスペイン，チェコへやはり自動車工場が進出する。日本からマレーシアへと電気機械工場が進出し，同じく日本から中国やベトナムへと電気機械工場や衣類工場が進出する。製品価格と１人当たりＧＮＩの間に関係があることも意識してほしい。

『低い方から高い方へと労働者が移動する』

１人当たりＧＮＩの低い国から高い国へと，労働者が移動する。高い賃金と多くの雇用機会を求め，経済活動の活発な先進国へと発展途上国から出稼ぎ労働者が流入する。

ドイツでは戦後復興期にトルコからの出稼ぎ労働者が多く流入した。日本でも1990年代に自動車工業などに従事するブラジル人の数が増加した。南アジアの国々から西アジアの産油国へと建設業の労働者として移動する人々も多い。

[知っておこう]

１人当たりＧＮＩの概念は，統計問題だけではなく，文章正誤問題でも登場するので注意。「ロシアから外国へ企業がさかんに進出している」「中国は外国人労働力が多く流入している」という選択肢が文章正誤問題で取り上げられたことがあるが，いずれも誤り。

また日本の工場が進出する主な国は，80年代は韓国，90年代前半がマレーシア，90年代後半が中国，現在はベトナムというように，次第に経済レベルが低い国へと移行している。これも１人当たりＧＮＩに対応させて考えるといい。

一般的に，１人当たりＧＮＩが３万ドルより高い国が「先進国」，２万～１万ドル程度までが「ＮＩＥｓ（中進国）」，数千ドルに達しない国が「発展途上国」。

１．７　ＧＮＩ

１人当たりＧＮＩと人口の積が「ＧＮＩ」。国民総所得である。「経済規模」を表し，具体的にはその国が全体で有する「お金」のことだと考えればいい。工業が発達した国で大きくなる傾向が強いが，１人当たりＧＮＩと人口に比例する指標であることも理解しよう。（ＧＮＩ）=（１人当たりＧＮＩ）×（人口）　である。

１位；アメリカ合衆国（70000 × 3.4億）　世界全体のＧＮＩの25%を占める。
２位；中国（11000 × 14.3億）　経済レベルは低いが，経済規模は大きい。
３位；日本（43000 × 1.2億）
４位；ドイツ（51000 × 0.8億）　ヨーロッパ最大のＧＮＩ。
５位；インド（2000 × 14.1億）
６位；イギリス（44000 × 0.7億）
７位；フランス（44000 × 0.7億）
８位；イタリア（36000 × 0.6億）
統計年次は2021年。

＜チェック！＞

「１人当たりＧＮＩ」と「ＧＮＩ」の違いを明確にしておこう。前者は「相対的な数（割合）」であり「高い」「低い」で表現するのに対し，後者は「実数」で「多い」「少ない」で表現する。

１人当たりＧＮＩ・・・経済レベル。ＧＮＩを人口で割った商であり，原則として人口規模に反比例する。単位は「ドル」が用いられることが多いが，厳密には「ドル／人」である。思わぬ小国で高い値となってしまったりするため，順位付けはあまりされない。「賃金水準」や「物価」の目安となる。工場の進出や労働者の移動と関連づけて考えることが多い。

ＧＮＩ・・・経済規模。１人当たりＧＮＩと人口の積であり，原則として人口規模に比例。単位は「ドル」。「国内市場の規模」を関連づけて考えればよく，この値が大きい国は工業生産や貿易なども大きくなる傾向にある。

例えば中国は，１人当たりＧＮＩは低く，ＧＮＩは大きい国である。2010年代には，安価な労働賃金水準を目的に日本などから工場が進出する一方，巨大な国内市場を当て込んで，中国向けの現地生産を行う工場も多数進出した。

<チェック！>

練習問題[５]はＧＮＩを計算する問題であることが分かるだろうか。ＯＤＡ供与額と，ＧＮＩに対するＯＤＡ供与額の割合からＧＮＩを計算してみよう。

候補となる４か国のＧＮＩについては十分に想像ができるだろう。いずれの国も先進国であり１人当たりＧＮＩは高いが，人口には明確な差がある。人口を基準にＧＮＩを考える。

１．８　世界全体の人口

世界全体の人口は，2000年に60億人を突破し，それからおおよそ１年ごとに１億人ずつ増加していると考えよう。2020年代には80億人を突破する。世界全体の人口増加率についても，年１％と考える。

１．９　大陸ごとの人口と人口増加率

世界の人口分布には大きな偏りがある。高温多雨で米の栽培が多い（米はカロリーと栄養価がともに高く，多くの人口を支えることができる）アジアに過度に人口が集中している。人口密度も高い。

アジア；45億

アフリカ；14億

ヨーロッパ；7.5億

南北アメリカ；10億

オセアニア；0.5億

以上のように、アジアに圧倒的な人口が集中し，それ以外の地域は平均的な分布であることを考える。

年人口増加率は世界平均で１％ほど。なお，後述するが，人口増加には自然増加と社会増加の２つがある。国や大陸の人口増加は主に自然増加で考える。

＜年人口増加率＞

	地域（大陸）	状況
とくに高い	アフリカ	子どもが重要な労働力と考えられ，出生率が高い。
高い	南アジア	女性の地位が低く，早婚のため多産となる。
	ラテンアメリカ	カトリック地域で中絶が禁じられ，出生率が高い。
低い	アングロアメリカ	移民が流入し，先進地域としては出生率が高い。
	東アジア	中国は一人っ子政策の影響で少産。
とくに低い	日本・ヨーロッパ	高齢化による若年層の割合低下などで出生率低下。

原則として，人口増加率は経済レベル（１人当たりＧＮＩ）と反比例する。所得水準が高くなっていくほど，子どもが少なくなっていくということ。

例外は中国とアングロアメリカ。中国は経済レベルが低いのに，人口増加率も低い。これは一人っ子政策によって社会制度的に出生率を低く抑えた影響である。アングロアメリカは先進地域としては例外的に人口増加率が高い。ヒスパニックなど移民の受け入れが多く，さらにその出生率も高い。

＜チェック！＞

図表を見る場合は，最初に割合ではなく実数に注目することが重要。**練習問題［７］**も，最初に割合である人口増加率を考えてしまうと**Ｂ**を北アメリカ，**Ｃ**をヨーロッパと勘違いする。実数に注目し，それでもわからない場合は割合を考える。この手順は重要。

１．１０　自然増加率と社会増加率の関係

以下の公式を理解する。

（人口増加）＝（自然増加）＋（社会増加）

（自然増加）＝（出生）－（死亡）

（社会増加）＝（転入）－（転出）

世界全体・大陸別・国別の人口増減に関しては自然増加中心で考える。古い時代に比べればさかんになったとはいえ，国境を越えた人口移動は出生数や死亡数に比べて規模は小さい。

日本国内の人口増減に関しては社会増加中心で考える。日本全体の人口は停滞（やや減少）しており，地域ごとの人口変化は転入と転出のバランスが主な原因である。

１．１１　人口増加率と出生率の関係

アフリカ大陸で人口増加率が高いメカニズムを考えてみよう。

アフリカ大陸は経済レベルが低く，多くの出稼ぎ労働者を他大陸へと送り出しているなど，社会増加率はマイナスとなっているはず。しかし，それは全体からみればわずかな数字に過ぎない。原則として，大陸や国の人口増加率については社会増加率は考慮に入れなくていい。

アフリカでは経済レベルが低いことに起因するさまざまな理由で多産であり，出生率が高い。死亡率については，低いとはいえないが，突出して高いわけではない（＊）。老年人口割合の高い先進国の方がむしろ高い場合もあり，死亡率の値は発展途上国と先進国の間に大きな差はない。

（人口増加率）＝（出生率）－（死亡率）＋（社会増加率）　であるが，社会増加率は無視でき，死亡率もどの国・地域も似た様な値となるので，人口増加率を決定付けるファクターは出生率そのものになる。

「アフリカ大陸は，出生率が高いので，人口増加率が高い」と言い切ってしまっていい。

（＊）「死亡率」と「乳幼児死亡率」を区別しておこう。死亡率は高齢化が進んだ先進国で高くなる傾向がある。つまり１人当たりＧＮＩに比例する傾向がある。一方の乳幼児死亡率は０～５歳児の死亡率であり，社会基盤が整わず衛生環境などが劣悪な発展途上国でとくに高くなる。こちらは１人当たりＧＮＩに反比例する指標。

＜チェック！＞

出生率は，高い国々（アフリカなど）で４％程度，低い国々（ヨーロッパなど）で１％程度と地域によって差は大きい。一方，死亡率はどの大陸も１％に近い水準であり（戦争・疫病・飢餓などの場合を除き），大差はない。

[知っておこう]

中国では1980年頃から一人っ子政策が実施されてきた（2015年に終了）。全人口の90％を占める漢民族は，原則として一組の夫婦は１人の子どもしかもうけられず，これにより人口増加率は低下した。ただし，男児と女児の新生児数に片寄りがあるなど，さまざまな問題点が生じている。

なお，インドでも子どもを２人までにしようという家族計画が実施されてきた

が，中国ほどの効果はみられていない。

１．１２　合計特殊出生率

１人の女性が一生涯に産む子どもの数の平均。この値が2.1人を下回ると，将来的に人口が減少すると予測される。現在の日本の合計特殊出生率は1.3で極めて低い。

<チェック！>

人口増加率を出生率の高低と結びつけ，さらに年齢別人口構成に関連づけよう。出生率の高い国は０～14歳までの年少人口率も高くなる。［８］では人口ピラミッドが取り上げられているが，年少人口率を読み取ろう。また［９］では３つの年代の割合が問われている。［８］のグラフを参考に，それぞれの年代の割合の高低を考えてみよう。人口増加率と出生率，年少人口率の関係を読み取る。

［９］のグラフが読み取れたら，［10］の読解も難しくない。ポイントはＸとＹだが，医療の発達などで世界全体で平均寿命が伸びていることを考える。つまり高齢者の割合は今後さらに上昇し，それに対し，若年層の相対的な減少によって出生率の低下が生じることを考えよう。

１．１３　産業別人口構成

第１次産業は農林水産業，第２次産業は鉱工業，第３次産業はその他。

最も収益性が低いのが第１次産業で，最も高いのが第３次産業，経済レベルの低い国や地域では第１次産業就業人口割合が高く，経済レベルの高い国や地域では第３次産業就業人口割合が高い。

とくに第１次産業就業人口割合を中心に考える。１人当たりＧＮＩと反比例する傾向があるものの，特徴的な国も存在する。

・**先進国**・・・産業構造が高度化し，第１次産業就業人口割合が低い。ただし国ごとに差がみられる。イギリス；1.0%，ドイツ；1.3%，アメリカ合衆国；1.7%，オーストラリア；2.4%，フランス；2.5%，日本；3.2%，イタリア；4.1%。

　農業が大規模機械化されているアメリカ合衆国やオーストラリアの値が低く，小規模な家族経営が中心の日本で高い。ヨーロッパでは「北で低く，南で高い」傾向がはっきりしている。イギリスなど北部の国で合理化された農業が営まれ，南部のイタリアでは大土地所有制が残るなど生産性の低い農業がみられる。イ

ギリス，ドイツ，フランスなどが小麦輸出国であるのに対し，イタリアは輸入国。

・発展途上国・・・１人当たりＧＮＩの低い国で第１次産業就業人口割合は高い。また，農業が「企業的」に営まれている新大陸で比較的低く，「家族中心の零細経営的」なアジアやアフリカでとくに高い。

重要な地域は東南アジア。タイは１人当たりＧＮＩが7000ドルであり，経済レベルがとくに低い国でもないのだが，第１次産業就業人口割合は30％に達している。東南アジアのような高温湿潤な米作地域で，この値はとくに高くなる傾向が強い。

１．１４　都市人口割合

人口のうち，都市に居住する人口の割合。先進国で高く，発展途上国で低くなる傾向がある。都市人口の反対語は農村人口で，都市人口と農村人口を合計すると，その国の総人口となる。

先進国は第１次産業就業人口割合が低く，農村人口も相対的に少ない，よって都市人口割合が高くなる。

発展途上国は第１次産業就業人口割合が高く，農村人口も相対的に多い。よって都市人口割合が低くなる。

特徴的な国としてタイを知っておこう。都市人口割合は50％程度であり高い値ではない。米作国においては都市人口割合はとくに低めの値となる。

＜チェック！＞

発展途上国では都市人口率そのものは低いが，その増加の度合いは著しい。農村から都市へと仕事を求めて多くの人々が移動している。しかし十分な仕事が都市にあるわけではなく，多くの人々はスラムで劣悪な生活を強いられる。先進国はかつてはこのような急激な人口移動を経験したが，現在はその勢いは抑えられている。

ワンポイント

人口に関する指標は相関関係が強い。１人当たりＧＮＩを基準にして以下の関係を理解しよう。

A．１人当たりＧＮＩと人口増加率・・・ほぼ反比例　（中国とアングロアメリカなどは例外）

B．１人当たりＧＮＩと第１次産業就業人口割合・・・ほぼ反比例　（東南アジアなどは例外）

C．１人当たりＧＮＩと乳幼児死亡率・・・反比例

Aについて。人口増加率と出生率が比例。同じく人口増加率と幼年人口率が比例し，人口増加率と老年人口率が反比例することから，以下のような関係が成立。

A１.１人当たりＧＮＩと出生率・・・ほぼ反比例

A２.１人当たりＧＮＩと年少人口率・・・ほぼ反比例

A３.１人当たりＧＮＩと老年人口率・・・ほぼ比例

Bについて。第１次産業就業人口割合と都市人口率が反比例することから，以下の関係が成立。

B１.１人当たりＧＮＩと都市人口率はほぼ比例。

大陸	１人当たりＧＮＩ	人口増加率	第１次産業就業人口割合	都市人口率
アジア（中国）	低	中	高	低
アフリカ	低	高	高	低
ヨーロッパ（西欧）	高	低	低	高
ヨーロッパ（東欧）	中	低	中	中
アングロアメリカ	高	中	低	高
ラテンアメリカ	中	中	中	中

アフリカ，ヨーロッパ，ラテンアメリカについてはパターンに当てはまり理解が容易。以下の国・地域に関しては注意しながら上の表を参照してほしい。

１）中国・・・一人っ子政策を実施してきた。１人当たりＧＮＩが低いにも関わらず，人口増加率は高くない。

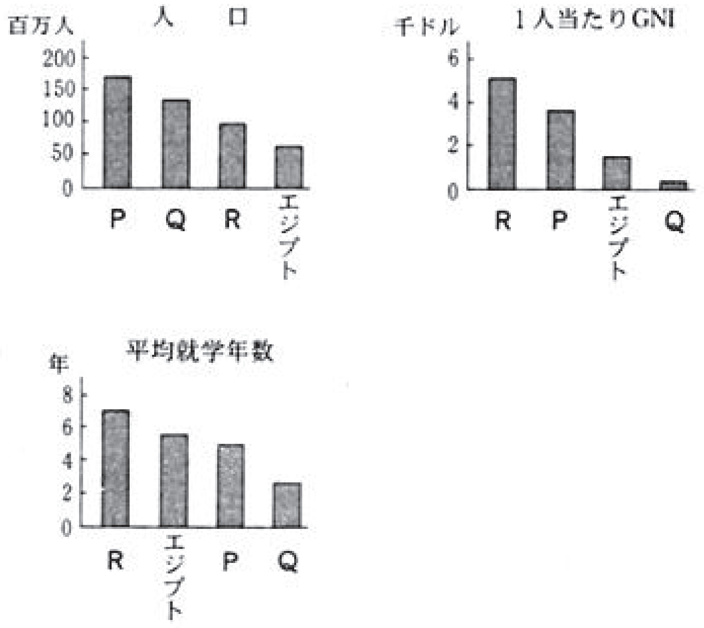
２）東南アジア・・・米作が盛んな地域。とくにタイは比較的工業が発達した国でありながら，第１次産業就業人口割合は大変高く，都市人口割合は大変低い。

３）アングロアメリカ・・・１人当たりＧＮＩが高い先進地域であるが，人口増加率も高い。移民の流入が顕著で，またそうした移民の間での出生率も高い。

第１講
人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ［練習問題］

［１］　次の図２は，エジプトを含む４か国の人口，１人当たりＧＮＩ（国民総所得），平均就学年数を示したものである。図２中のＰ～Ｒは，バングラデシュ，ブラジル，メキシコのいずれかである。Ｐ～Ｒと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ｂ追試験第４問問５）



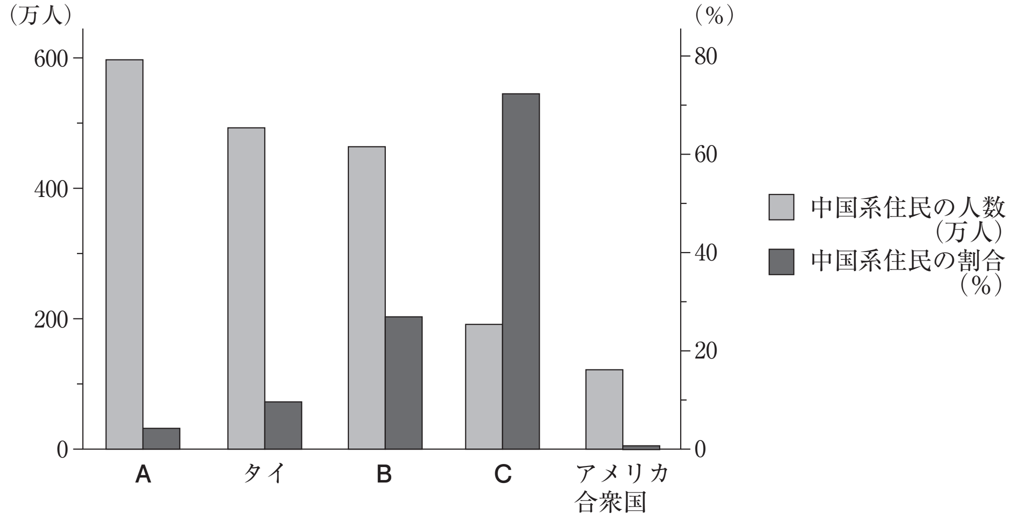
統計年次は2000年。
World Bank, *World Development Indicators* により作成。

図２

	Ｐ	Ｑ	Ｒ
①	バングラデシュ	ブラジル	メキシコ
②	バングラデシュ	メキシコ	ブラジル
③	ブラジル	バングラデシュ	メキシコ
④	ブラジル	メキシコ	バングラデシュ
⑤	メキシコ	バングラデシュ	ブラジル
⑥	メキシコ	ブラジル	バングラデシュ

［２］　次の図１は，1990年前後における中国国外の中国系住民の人数（推計値）と各国人口に占める割合を，人数の多い上位５か国について示したものであり，Ａ～Ｃはインドネシア，シンガポール，マレーシアのいずれかである。Ａ～Ｃに該当する国名の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ｂ本試験第４問問１）



游仲勲編『世界のチャイニーズ』などにより作成。

図１

	A	B	C
①	インドネシア	シンガポール	マレーシア
②	インドネシア	マレーシア	シンガポール
③	シンガポール	インドネシア	マレーシア
④	シンガポール	マレーシア	インドネシア
⑤	マレーシア	インドネシア	シンガポール
⑥	マレーシア	シンガポール	インドネシア

［３］　人口密度と都市人口率は，人口分布の状態を示す重要な指標である。次の表１中の①～④はアメリカ合衆国，インド，インドネシア，日本のいずれかの人口密度と都市人口率を示したものである。インドネシアに該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ本試験第４問問５）

表１

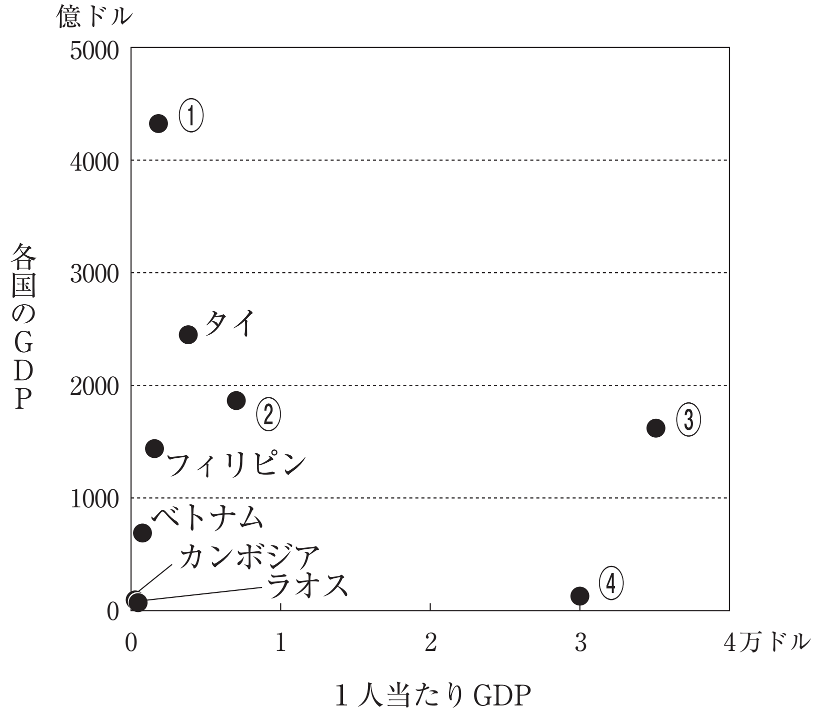
	人口密度（人／㎢）	都市人口率（%）
①	335	91
②	383	31
③	128	50
④	33	82

統計年次は，人口密度については2012年，都市人口率については2010年。
『世界国勢図会』により作成。

（編集部注：本問については統計年次を最新のものに改定してある。）

［4］ 次の図４は，ＡＳＥＡＮ加盟国のＧＤＰ（国内総生産）と１人当たりＧＤＰを示したものであり，①～④は，インドネシア，シンガポール，ブルネイ，マレーシアのいずれかである。マレーシアに該当するものを，図４中の①～④のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ追試験第４問問６）



統計年次は，ブルネイが2006年，それ以外が2007年。
ミャンマーはデータなし。
『世界国勢図会』により作成。

図４

［５］　地球的課題の解決には，先進国の国際協力における貢献が期待されている。次の表２は，1995年と2004年に行ったODA（政府開発援助）の実績と，GNIに対するODAの割合を示したものであり，①～④は，アメリカ合衆国，イギリス，日本，フランスのいずれかである。日本に該当するものを，表２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第５問問６）

表２

	1995年		2004年	
	ODAの実績（百万ドル）	GNIに対するODAの割合	ODAの実績（百万ドル）	GNIに対するODAの割合（%）
①	14,489	0.28	8,859	0.19
②	8,443	0.58	8,475	0.42
③	7,367	0.10	18,999	0.16
④	3,157	0.28	7,836	0.36

『世界国勢図会 CD-ROM』により作成。

［6］　次の表１は，2018年と2030年におけるメガシティ*の数を地域別に示したものであり，J～Lは，アジア，アフリカ，北アメリカのいずれかである。また，メガシティの現状と課題に関する文章中の空欄aには，文カとキのいずれかが当てはまる。Kに該当する地域と空欄aに当てはまる文との組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。

*人口1000万人以上の都市や都市圏。

（2022年度地理Ａ本試験第４問問３）

表１

	2018年のメガシティ数	2030年のメガシティ数(予測値)
J	20	27
中央・南アメリカ	6	6
K	3	5
L	2	2
ヨーロッパ	2	3
オセアニア	0	0

The World's Cities in 2018 により作成。

世界各地のメガシティの特性を比較すると，発生する都市問題は地域によって異なる傾向がみられる。例えば，中央・南アメリカのメガシティでは，（　a　）が顕著な問題となっており，対策が求められている。

カ　急速に進む高齢化と社会基盤の老朽化

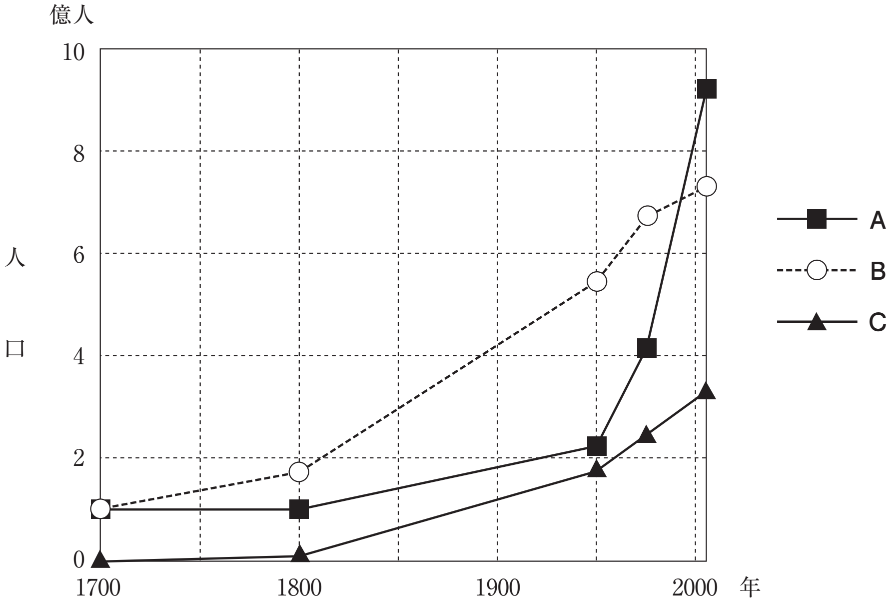
キ　人口増加に伴って生じるスラムの拡大と居住環境の悪化

	①	②	③	④	⑤	⑥
K	アジア	アジア	アフリカ	アフリカ	北アメリカ	北アメリカ
a	カ	キ	カ	キ	カ	キ

［7］　現代世界の大きな課題として急激な人口増加があり，その過程は地域により異なる。次の図１中のＡ～Ｃは，アフリカ，北アメリカ(＊)，ヨーロッパのいずれかの地域における1700年から2000年の人口の推移を示したものである。Ａ～Ｃと地域名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)アメリカ合衆国とカナダ。

(2011年度地理Ｂ本試験第５問問１)



国立社会保障・人口問題研究所の資料による。

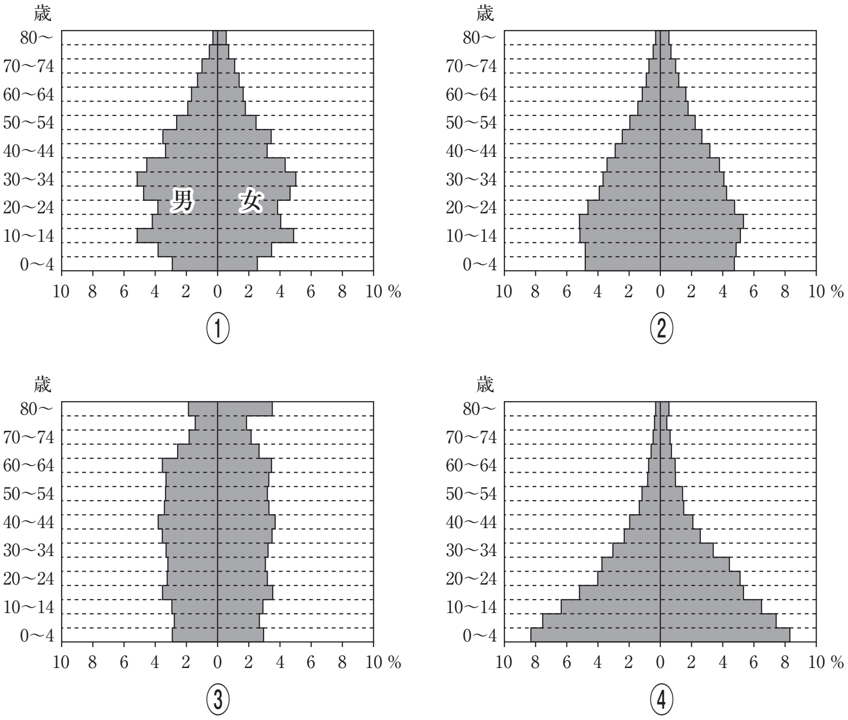
図１

	Ａ	Ｂ	Ｃ
①	アフリカ	北アメリカ	ヨーロッパ
②	アフリカ	ヨーロッパ	北アメリカ
③	北アメリカ	アフリカ	ヨーロッパ
④	北アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ
⑤	ヨーロッパ	アフリカ	北アメリカ
⑥	ヨーロッパ	北アメリカ	アフリカ

［８］　世界各国では，人口の急速な増加や年齢構成のかたよりが問題となっている。次の図１は，いくつかの国における人口ピラミッドを示したものであり，①～④はスウェーデン，タンザニア，中国（＊），ブラジルのいずれかである。ブラジルに該当するものを，図１中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）台湾，ホンコン，マカオを含まない。

（2013年度地理Ａ本試験第４問問１）

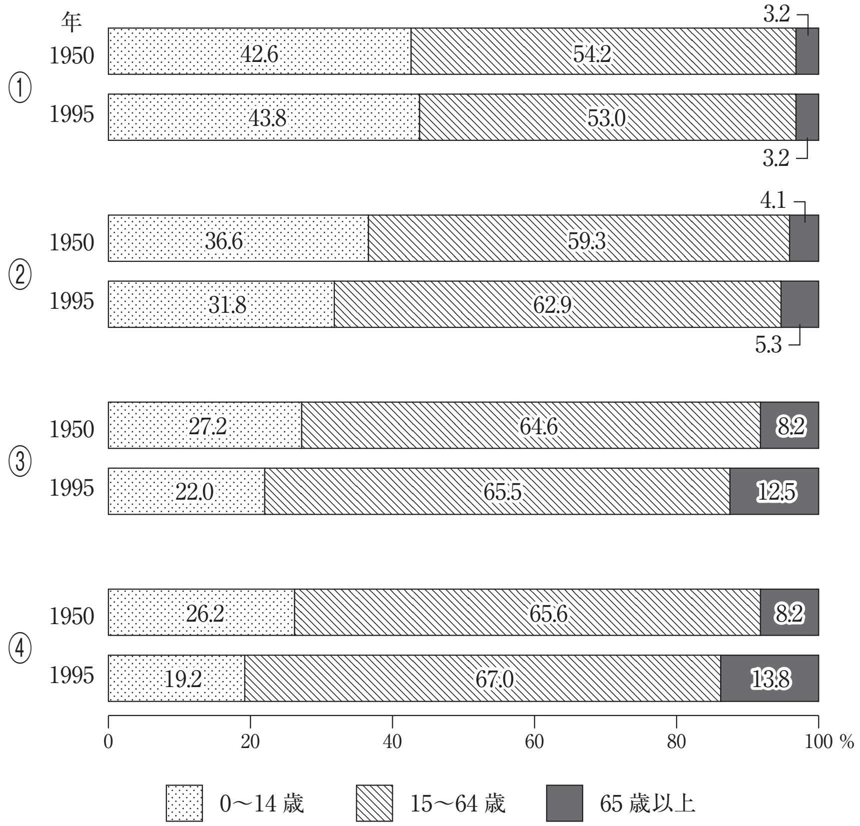


統計年次は，スウェーデンが2008年，タンザニアが2002年，中国とブラジルが2000年。
UN, Demographic Yearbook により作成。

図１

［９］ 次の図２は，アジア，アフリカ，アングロアメリカ，ヨーロッパについて，1950年と1995年の年齢３階級別人口構成を示したものである。アジアに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ本試験第４問問２）



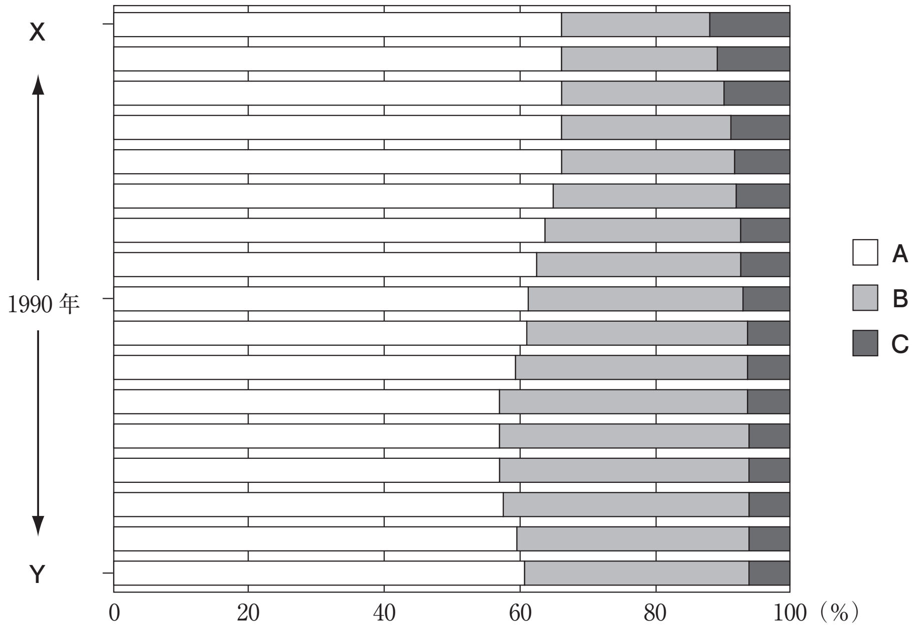
『1998 人口の動向』により作成。

図２

［10］　次の図２は，1950年から2030年に至る80年間の世界の人口構成の推移（＊）を５年ごと，年齢３区分別にみたものである。図２中のＡ～Ｃは，15歳未満，15歳以上65歳未満，65歳以上のいずれかの人口割合に，ＸとＹは，1950年，2030年のいずれかの年次に該当する。ＢとＸに該当するものの組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）2000年以降は将来推計値。

（2002年度地理Ｂ本試験第４問問３）



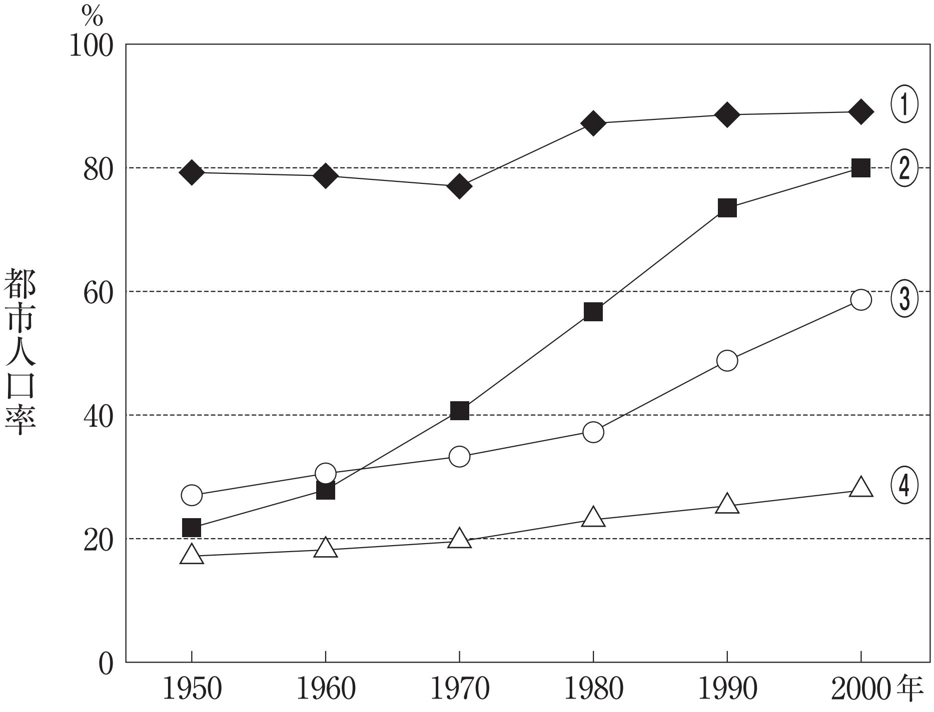
United Nations, World Population Prospects により作成。

図２

	B	X
①	15歳未満	1950年
②	15歳未満	2030年
③	15歳以上65歳未満	1950年
④	15歳以上65歳未満	2030年
⑤	65歳以上	1950年
⑥	65歳以上	2030年

［11］　次の図１は，都市人口率の推移を国別に示したものであり，①～④はイギリス，インド，韓国，フィリピンのいずれかである。イギリスに該当するものを，図１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ本試験第３問問３）



『世界国勢図会 CD-ROM』により作成。

図１

［12］　次の表１は，都市人口率と都市および村落の65歳以上の人口割合を国別に示したものであり，①～④は，インドネシア，カナダ，日本，ペルーのいずれかである。カナダに該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2011年度地理Ｂ追試験第３問問３）

表１

（単位：％）

	都市人口率	65歳以上の人口割合	
		都市	村落
①	80.1	13.8	13.4
②	71.1	6.3	6.7
③	66.0	19.5	24.1
④	48.1	4.0	5.1

統計年次は，都市人口率が2005年，65歳以上の人口割合が2005年～2007年のいずれか。

UN, *Demographic Yearbook* などにより作成。

第１講
人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ［確認問題］

［１］　世界の人口を考える上では，人口数と年齢構成の地域差を考慮する必要がある。次の図４は，世界の地域別の人口推移とその予測値を示したものであり，ａとｂは０～14歳人口と65歳以上人口のいずれか，凡例ＰとＱはアジアとアフリカのいずれかである。０～14歳人口とアフリカとの正しい組合せを，後の①～④のうちから一つ選べ。

（2024年度地理Ａ本試験第４問問４）

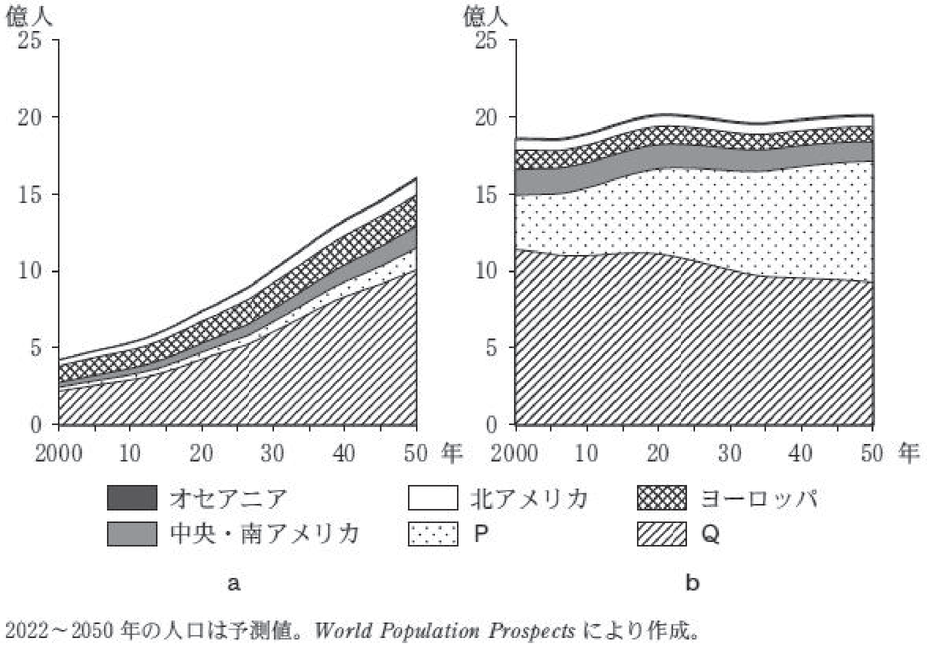


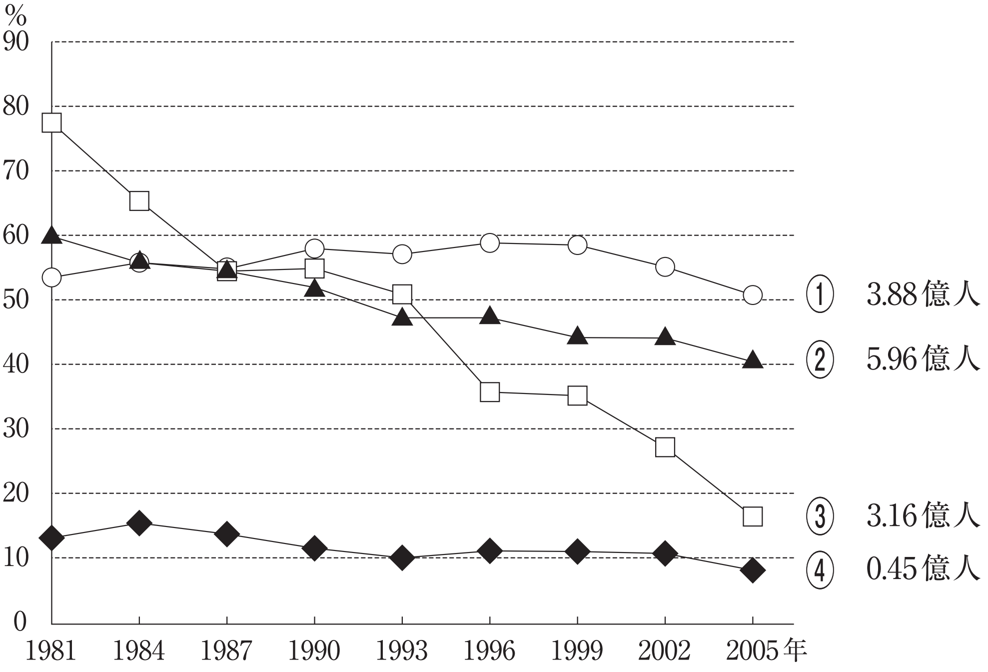
図４

	①	②	③	④
０～14歳人口	a	a	b	b
アフリカ	P	Q	P	Q

［２］　次の図１は，いくつかの地域における1981年から2005年までの貧困人口（＊）の割合の推移を示したものであり，①～④は，サハラ以南アフリカ，中央・南アメリカ，東アジア・東南アジア・オセアニア，南アジアのいずれかである。東アジア・東南アジア・オセアニアに該当するものを，図１中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）１人１日当たり1.25ドル未満で生活する人口。

（2013年度地理Ａ追試験第４問問１）



グラフ右側の数値は，2005年におけるそれぞれの地域の貧困人口を示す。
World Development Indicators により作成。

図１

［３］　次の表１は，人口密度，成人識字率（＊），平均寿命を地域別に示したものであり，**ア**～**ウ**は，東南アジア，西アジア（＊＊），南アジアのいずれかである。表１中の**ア**～**ウ**と地域名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）15歳以上人口の識字率。

（＊＊）アゼルバイジャン，アルメニア，グルジア（ジョージア）を含む。

（2008年度地理Ａ追試験第４問問２）

表１

	ア	イ	ウ
人口密度（人／㎢）	123.6	43.5	323.9
成人識字率（％）	89.6	74.7	55.2
平均寿命（歳）	67.2	68.7	63.2

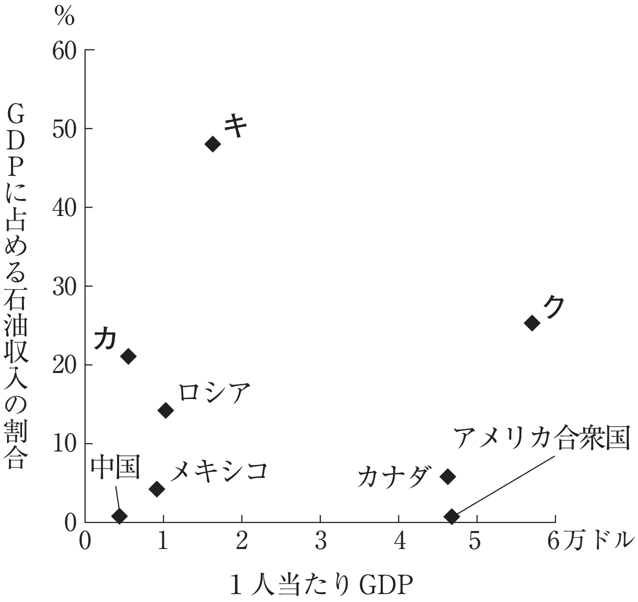
統計年次は，人口密度が2005年，成人識字率が2001年，平均寿命が2000～2005年の平均値。

ユネスコなどの資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	東南アジア	東南アジア	西アジア	西アジア	南アジア	南アジア
イ	西アジア	南アジア	東南アジア	南アジア	東南アジア	西アジア
ウ	南アジア	西アジア	南アジア	東南アジア	西アジア	東南アジア

［4］　次の図３は，石油の生産量上位８か国について，１人当たりＧＤＰ（国内総生産）とＧＤＰに占める石油収入の割合を国ごとに示したものであり，**カ〜ク**はアラブ首長国連邦，イラン，サウジアラビアのいずれかである。**カ〜ク**と国名との正しい組合せを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（2014年度地理Ｂ本試験第４問問３）



中国には台湾，ホンコンを含まない。
統計年次は2010年。
World Economic Outlook により作成。

図３

	①	②	③	④	⑤	⑥
アラブ首長国連邦	カ	カ	キ	キ	ク	ク
イラン	キ	ク	カ	ク	カ	キ
サウジアラビア	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［５］　地球的課題を解決する枠組みの一つとしてＯＤＡ（政府開発援助）があり，その拠出状況は国により異なる。次の表２は，ＯＤＡ総額，ＧＮＩ（国民総所得）に対するＯＤＡ総額の比率，供与額が最大となる地域（＊）を，拠出国別に示したものであり，①～④は，イタリア，オランダ，日本，フランスのいずれかの国である。オランダに該当するものを，表２中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）ＯＥＣＤの地域区分によるもので，内訳は，サハラ以南のアフリカ，西アジアおよび北アフリカ，南・中央アジア，東・東南アジアおよびオセアニア，ヨーロッパ，ラテンアメリカおよびカリブ海諸国の６地域。

（2011年度地理Ｂ本試験第５問問４）

表２

	ODA総額（億ドル）	GNIに対するODA総額の比率(%)	供与額が最大となる地域
①	109.6	0.39	サハラ以南のアフリカ
②	93.6	0.18	東・東南アジアおよびオセアニア
③	69.9	0.80	サハラ以南のアフリカ
④	44.4	0.20	西アジアおよび北アフリカ

統計年次は，ＯＤＡ総額とＧＮＩに対するＯＤＡ総額の比率が2008年，供与額が最大となる地域が2007～2008年。

ＯＥＣＤの資料により作成。

［６］　次の表１は，いくつかの地域における都市人口率と人口500万人以上の都市(＊)数を示したものであり，①～④はアジア，アフリカ，オセアニア，ヨーロッパのいずれかである。アフリカに該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)郊外を含めた都市域の人口が500万人以上の都市を含む。

(2014年度地理Ｂ本試験第３問問１)

表１

	都市人口率(％)	人口500万人以上の都市数
①	72.9	3
②	70.7	0
③	45.0	26
④	39.6	2

統計年次は，都市人口率が2011年，人口500万人以上の都市数が1991年～2010年のいずれか。

UN, *Demographic Yearbook* などにより作成。

〈 ***Note*** 〉

第１講　人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ　解答

[１]正解；③

[２]正解；②

[３]正解；③

[４]正解；②

[５]正解；①

[６]正解；④

[７]正解；②

[８]正解；②

[９]正解；②

[10]正解；②

[11]正解；①

[12]正解；①

第１講　人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ　解答

［１］正解；③

　ＰとＱの判定から考える。まずＱがアジアである。アジアは世界全体の約60％の人口を占め，０～14歳人口，65歳以上人口に限定しても，その数は最大であると考えられる。消去法でＰはアフリカである。

　次にａとｂの判定に進む。衛生条件の改善などによって世界の平均寿命は伸びており，それに従って高齢者の数も増えている。全体として増加傾向にあるａが65歳以上人口，ｂが０～14歳人口である。年少人口はアフリカでは増加するが，アジアでは減少すると考えられている。

［２］正解；③

　地域全体の人口を計算してみるといい。

①；3.88（億）÷ 0.5 ≒ ８（億）

②；5.96（億）÷ 0.4 ≒ 15（億）

③；3.16（億）÷ 0.15 ≒ 20（億）

④；0.45（億）÷ 0.1 ≒ 5（億）

　世界全体の人口分布については，アジアに総人口の８分の５が集中，ヨーロッパ（ロシア含む）・アフリカ・南北アメリカに８分の１ずつと考える。現在の地球の総人口が72億人（2013年当時。2020年現在で80億人を超える）なので，アジアに45億人，ヨーロッパ・ロシアに９億人，アフリカに９億人，南北アメリカに９億人が分布するとみなす。

　①については「サハラ以南のアフリカ」とみていいだろう。大陸全体で９億人だが，サハラ以北のアフリカは全体に砂漠が広がり，人口はせいぜい１～２億人ではないか。サハラ以南のアフリカの人口は８億人程度と概算される。

　④は「中央・南アメリカ」。南北アメリカ全体で９億人だが，北アメリカ（アメリカ合衆国，カナダ）で3.5億人なので，中央・南アメリカで5.5億人。近似値で５億人。

　②が「南アジア」。南アジアはインドとパキスタン，バングラデシュ（ネパール以下は小国なので考慮しなくていい）。インドで13億人，パキスタンが２億人，バングラデシュが1.6億人であり，南アジア全体の人口は17億人と概算される。

　残った③が「東アジア・東南アジア・オセアニア」。人口大国だけでも中国14

億人，日本1.25億人，インドネシア２億人。これに韓国4千５百万，ベトナム１億，フィリピン１億，タイ７千万，マレーシア３千万が加わる。総計で20億人に達していると考えても妥当だろう。

ちなみに，東アジアの値がこの25年間で急降下しているが，これは地域全体の近代化に加え，とりわけ中国の経済成長の影響が強いと思われる。中国の１人当たりＧＮＩは1980年時点では1000ドル／人に達していなかったのに，現在(2017年時点)は8690ドル／人に達している。「１日当たり1.25ドル未満で生活する人口」が急激に減少したとみて間違いないだろう。

なお本問については問題の出題された年次との兼ね合いから，あえて最新のデータではなくやや古い数値に基づいて考察を進めている。最新のデータにおいても，それぞれの地域の人口は「東アジア・東南アジア・オセアニア」＞「南アジア」＞「サハラ以南のアフリカ」＞「中央・南アメリカ」の順には変化はない。細かい数字にこだわるのではなく，計算によって解答を求めるという考え方にこそ注目して欲しい。

［３］正解；①

人口密度に注目しよう。南アジアの過半を占める国はインド。インドは人口で日本の10倍，面積で日本の９倍の国であり，人口密度は日本より高い。日本の人口密度が335人／km^2であるので，これに匹敵する高さのウが南アジアとなる。

さらにイに注目。こちらはかなり人口密度が低い。西アジアは広く乾燥地域で農業が振るわず，決して人口密度が高い地域ではない。これが西アジアに該当し，正解は①。

［４］正解；⑤

１人当たりＧＤＰは１人当たりＧＮＩと同義。サウジアラビアの１人当たりＧＮＩは20000ドル。キがサウジアラビア。

アラブ首長国連邦は産油国であることに加え，人口が少ないため，１人当たりＧＮＩの値は極めて高くなる。クがアラブ首長国連邦。ドバイを中心とした観光収入や，近年成長してきたアルミニウム工業によって，石油収入への依存度はサウジアラビアほどは高くない。

残ったカはイラン。人口が多いこともあり，１人当たりＧＮＩはさほど高くない。

［5］正解；③

「ＯＤＡ総額」と「ＧＮＩに対するＯＤＡ総額の比率」が示されているので，ＧＮＩが計算できる。表中の①～④について，ＧＮＩを計算してみよう。

①；109.6（億）÷ 0.0039 = 28103（億）

②；93.6（億）÷ 0.0018 = 52000（億）

③；69.9（億）÷ 0.0080 = 8738（億）

④；44.4（億）÷ 0.0020 = 22200（億）

以上より，②＞①＞④＞③　となる。

ここで，選択肢の４か国をＧＮＩ順に並べる。ＧＮＩ＝１人当たりＧＮＩ×人口　であるのだが，選択肢の４か国はいずれも先進国であり，１人当たりＧＮＩの高低に大きな差はないはず。人口規模の大小がすなわちＧＮＩの大小にそのまま結びつくと考えよう。

人口は日本は1.25億，フランスとイタリアが0.6億程度であるのに対し，ヨーロッパの小国であるオランダは1500万人程度。

以上より，②が日本，①と④がフランスかイタリアのいずれか，③がオランダとなる。

なお，「供与額が最大となる地域」はオランダを判定するヒントにはならない。オランダの主な旧植民地にインドネシアがある。たしかにヨーロッパ諸国の場合，かつて植民地支配した国に多額のＯＤＡが供与される傾向があり，オランダとインドネシアの関係を考えるのは自然なことだ。しかし本問において供与額が最大となる地域に東南アジアが含まれているのは②であり，③のオランダではない。あいまいな事項をヒントとするのではなく，数字のような確実な手がかりを探すことが重要。

［6］正解；④

大都市の数とその地域の人口規模は比例すると考える。40億を超える人口を有するアジアが，大都市が多い③に該当。反対に人口規模が１億人に達しないオセアニアに大都市は存在せず，②となる。

①と④の判定は大都市の数だけではできないので，都市人口率を参照。すでに述べているように，都市人口率についてはおおまかに１人当たりＧＮＩに比例すると考えておけば十分。ヨーロッパには１人当たりＧＮＩが高い国が多く，都市人口率もおしなべて高いと予想される。①がヨーロッパ。その反対に，アフリカ諸国は全体として１人当たりＧＮＩが低く，都市人口率も低い。④がアフリカ。